

一 告 告



坪井 聡汰 (つひい ともた)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
電気電子工学専攻  
博士前期課程二年  
静岡県立浜名高等学校出身

## 六年間のキーワードはものづくり。 学生主体で面白いことができません。

将来ビジョンは曖昧でも、大学に入って勉強や課外活動を進めていくうちに、自分自身の目指すものが見えてくる。坪井さんもそうだった。研究室選り、大学院進学、就活。岐路に立った時には悩んだが、いつかそれがスーツと一本につながっていったのだ。そのキーワードは「ものづくり」であった。「音響に興味があり、その研究

徹底していましたね。」

Bridgestone World Solar Challenge 2015に参加し、坪井さんはドライバーの一人としてハンドルを握った。オーストラリア大陸を縦断、七日間で三〇〇〇キロを完走した。また四年次にはソーラーカーレース鈴鹿にも参加。五時間の耐久レースで、抜きつ抜かれつ、ハラハラドキドキだったという。

「ソーラーカーで無線通信やモニタリングシステムに関わって行く中で、通信やアンテナが面白くなってきた。電波って何だろうと。

それでアンテナの研究をしている野口研究室を選びました。先生の授業では配付資料によってしっかりと復習でき、楽しくわかりやすかったから。研究で先生がよく言うのは、再現性です。何回やっても同じ結果が出るのが大事だ。」  
指導教授の野口啓介先生の専門はアンテナ工学。「守破離」「却下照顧」を大切にされているが、研

究室を離れると、毎月の飲み会や自宅で奥さまの手料理に学生を誘うこともあるという先生である。

「修士の研究テーマは、人体近接アンテナの解析と特性改善に関する研究です。アンテナを人体の近くで動かす時に電波がどう変化するかということ。実験では、市販の寒天粉をお湯で固めて疑似人体モデルを作り、その上にいろいろなアンテナを置いてデータを取るんですよ。院に入って三回学会で発表しましたが、十二月と一月にもあり、忙しいです。」

夢考房で、研究で、さらに個人的にもものづくりを体験し、あとは企業でのものづくりである。就職は出身地浜松のヤマハに内定。ネットワーク関連を希望するが、好きな音楽の環境で楽しくて面白い仕事に挑戦するだろうと思った。

### 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七七一  
電話番号(076)2481100

KIT  
キャンパス  
レポート

文:出島二郎  
マーケティングプランナー